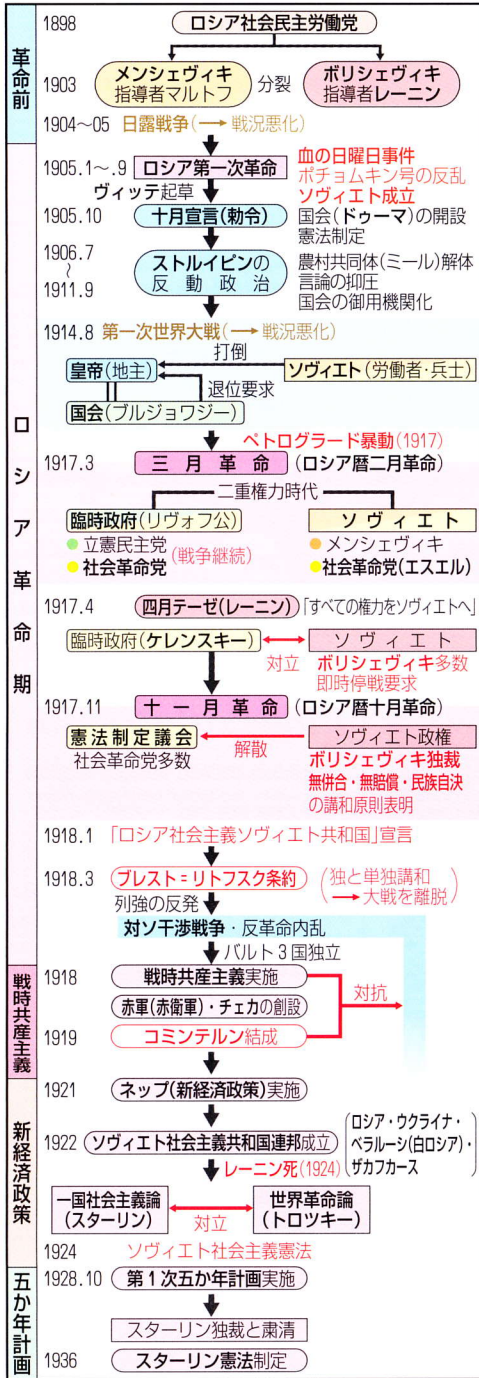


1 ロシア革命の進展



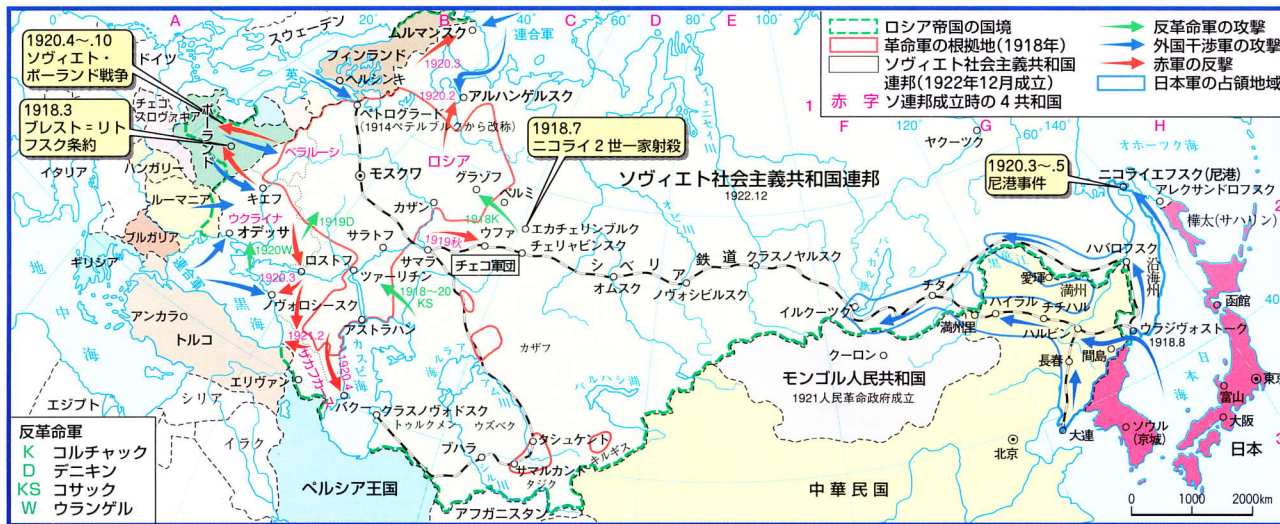
血の日曜日事件 日露戦争中の1905年1月22日、僧ガボン率いる平和請願デモにペテルブルク冬宮の近衛兵が発砲し、2000人にもぼる死傷者を出した事件。ロシア第一次革命の導火線となった。



ラスプーチン (1871~1916)
 ラस्पーチンとニコライ2世一家
 皇后アレクサンドラ ニコライ2世
 皇太子アレクセイ 皇女アナスタシア

ロシア革命前、混乱深まるロマノフ朝の宮廷に1人の黒幕がいた。男の名はラスプーチン。鋭い眼光、黒い長髪を持つこの奇妙な僧は、血友病に悩む皇太子を祈禱で治療したことから皇后の信頼を得て権力を握った。時の首相ストルイevinは彼を宮廷から排除しようとしたが失敗。ラスプーチンの専横が強まる中、ロシア帝国は崩壊への途を辿った。

2 ロシアにおける革命と反革命



3 ロシアの政党

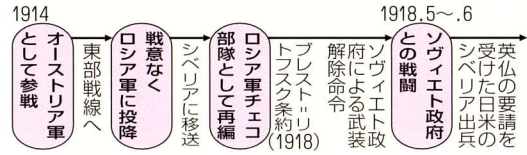
1898	1903	赤人名：中心人物
ロシア社会民主労働党 (プレハロノフ)	ボリシェヴィキ (多数派) (レーニン)	●少数の革命家による厳格な党組織 ●2段階連続革命論(ブルジョワ民主主義革命から連続して一気に社会主義革命を達成する) ●1918年、ロシア共産党に改称
	メンシェヴィキ (少数派) (プレハロノフ マルトフ)	●西政型の大众的な党組織 ●まずブルジョワ民主主義革命を達成。その後条件を整備しながら徐々に社会主義化を図る
	社会革命党(エスエル) (左派・右派に分裂)	●ナロードニキの流れ(農民重視) ●ツァーリズム打倒と土地分配主張
	立憲民主党 (カデット)	●資本家・進歩的地主などを基盤 ●議会開設と言論・集会の自由主張

演説するレーニン 十一月革命(ロシア暦十月革命)で臨時政府を打倒したレーニンは、11月8日未明、全ロシア・ソヴェト会議で権力のソヴェトへの移行を宣言。新政府である人民委員会議を選出、「平和に関する布告」「土地に関する布告」を発表した。



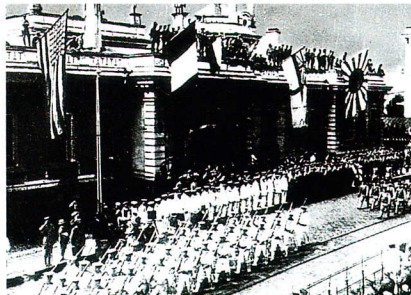
4 対ソ干渉戦争

● チェコ兵の足どり

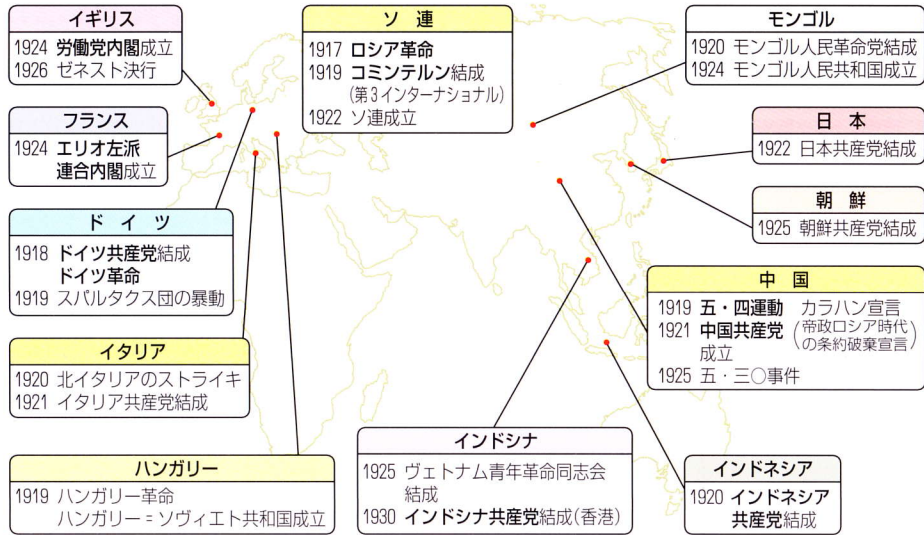


↑ 解説

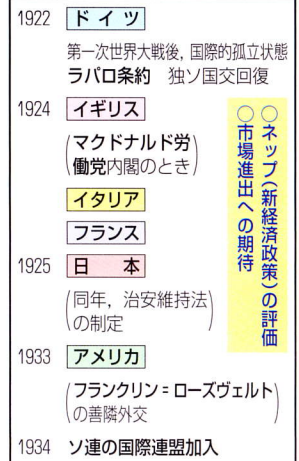
チェコ兵捕虜救出を口実に対ソ干渉戦争を強行した列強の真の目的は、ソヴィエト政権打倒と帝国主義的進出であった。



5 ロシア革命の影響



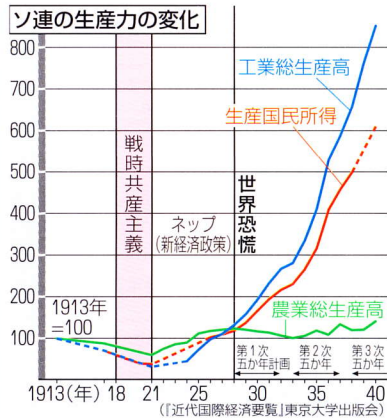
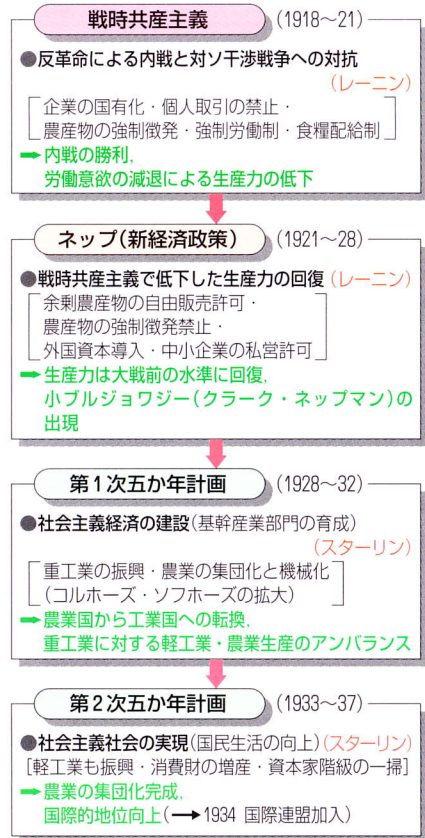
6 列国のソ連承認



○ネップ(新経済政策)の評価
○市場進出への期待

7 ソ連の経済政策

赤字：指導者



● **コルホーズ(集団農場)** スターリンは第1次五か年計画の重点である工業化の前提として、穀物生産の増大を図った。強引な農業の集団化を展開し富農や反抗する農民を激しく弾圧した。

「コルホーズは農民を助ける」

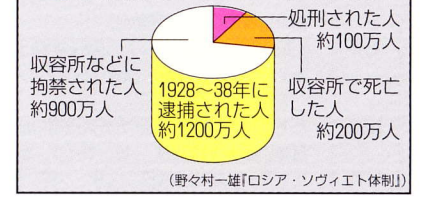


スターリンの功罪



スターリン時代のソ連経済は確実に発展し、社会主義国家ソ連の国際的地位向上と合わせて、後の独ソ戦(1941~45)に耐える国力を蓄えることになる。しかし、その陰で「大粛清」と呼ばれる一連の政敵打倒を進めており、反革命分子・スパイとして処刑された共産党員は100万人にのぼった。レーニンはスターリンのこのような一面を早くから見抜いていたといわれる。

● 大粛清(1934~38)の実態



● 消されたトロツキー

スターリンは政敵トロツキーの写真を修正して「レーニンの側近」としてのイメージを消そうとした。失脚したトロツキーは1940年メキシコで暗殺された。

● スターリン時代の強制収容所

